

医療福祉 経営最前線

50超の職種で従業員1500人
重度者対応へ訪問診療・看護を拡充

医療・介護・障がい福祉・保育を ドミナントでワンストップサービス

株式会社ドットライン

千葉市美浜区

「在宅」をキーワードに訪問介護からスタートしたドットラインは、地域包括ケアシステムの中心が退院支援から訪問看護への過程にあると認識して、従来から国の政策は重度者対応にシフトすると想定していた。事業の重点を訪問介護から訪問診療・訪問看護に移した。そのうえで「成長と変化」「凡事徹底」を念頭に、全部門が2週間単位で業務改善を繰り返して競争力を強化。その一端をレポートする。

株式会社ドットライン
代表取締役 兼 グループCEO

垣本 祐作氏



事業所は県内に160カ所
千葉県で業界トップの拠点数

1990年代中頃から2000年代前半にかけて、ソフトバンクグループ会長の孫正義氏、パソナグループ代表の南部靖之氏、エイチ・アイ・エス最高顧問の澤田秀雄氏の3人は「ベンチャー三銃士」と称され、社会変革の旗手として維新の志士にもなぞらえられて、何かしらの志を抱く若者の胸を大いに躍らせた。当時、高校生だった垣本祐作氏もその1人で、「竜馬がゆく」を愛読しながらベンチャーマインドを宿し始める。日本社会事業大学卒業後はパソナグループのベネフィットワンに就職。退職後、ポートルナー試験に合格して養成所に入所したが、ここでベンチャーマインドを開花させる。

ポートルナー試験の合格率が2%と超難関であることに着眼し、受験予備校を設立して合格者8割以上のシェアを達成した。4校まで増やして4校とも現在は別の経営者のもとで運営されている。その後、29歳になった2011年に方向転換を図る。きっかけは実家で暮らす祖母の介護と死だった。

「自分がやりたかった仕事は、人が本当に困った時に助けることで、それは生命に関わる社会課題の解決ではないのか。大学時代に学んだ2025年問題に向き合おうと決断しました」

垣本氏の中で点(ドット)が線(ライン)に変わり、ドットラインを設立して訪問介護と居宅介護支援を開始した。それから10年が経過して、同社の事業は、高齢者支援領域(訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護、通所介護、短期入所生活介護、小規模多機能、ナーシングホームなど)、障がい者・児童支援領域(訪問介護、生活介護、放課後等デイ、重症心身型放課後等デイ、就労移行支援・自立訓練、就労継続支援B型、障がい者グループホームなど)、子育て支援領域(児童発達支援、保育)に拡大した。

年間売上高は23年12月期に73億5000万円。従業員数は1500人(70%が正社員)。24年同期には110億円、1800、1900人に拡大する見通しだという。事業所の拠点数は千葉県内に160カ所を超えるが、この拠点数は東京商工リサーチの調査によると、県内の医療福祉事業者でトップである。だが、目標値を定めて拠点数を増やしたのではない。ケア

医療・福祉業界から日本が「もう一度世界をリードする」を胸に、首都圏を中心にグループ企業9社、160以上の事業所を運営中。2023年に一新したコーポレートアイデンティティのリニューアルでは、千葉都市モノレールのラッピング広告等を展開。国際デザインコンペ「A'Design Award」金賞を受賞している。

